

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

作成日 平成19年 5月24日

【評価実施概要】

事業所番号	0773100649		
法人名	株式会社 まちづくり小野		
事業所名	グループホーム さくらんぼ		
所在地	〒963-3401 福島県田村郡小野町大字小野新町字知宗57-4 (電話) 0247-71-0035		
評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8043 福島県福島市中町4-20 みんなゆうビル302号室		
訪問調査日	平成19年5月10日	評価確定日	平成19年6月11日

【情報提供票より】 (平成19年 4月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	17年	6月	1日
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18	人
職員数	24 人	常勤10人,	非常勤14人,	常勤換算19.75人

(2) 建物概要

建物構造	木造	平屋	造り
	1階建ての	1階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	西側 33,000円 東側 30,000円	その他の経費(月額)	4~11月 10,000円 12~3月 11,000円
敷金	有() 無()		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 無()	有りの場合 償却の有無	有 / 無()
食材料費	朝食	250 円	昼食 300 円
	夕食	350 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要

利用者人数	18名	男性 6名	女性 12名
要介護1	2名	要介護2	5名
要介護3	7名	要介護4	3名
要介護5	1名	要支援2	0名
年齢	平均 82.9歳	最低 67歳	最高 94歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	公立小野町地方総合病院、石塚医院、パル歯科クリニック
---------	----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

木造平屋建ての2ユニットのホームは消防署と隣接し、近くには警察署・役場・町営住宅・郊外型の大型店があり、恵まれた立地条件にあるため、散歩や買い物に出かける機会も多い。開設後丸2年経過し、職員も利用者もなごやかな雰囲気を楽しんでいる。利用者が農家出身者が多いこともあり、建物の周りの畑で野菜作りをしている。また、今年から地域の方の厚意で近くに畑を借り、本格的に野菜作りに取り組んでいる。職員体制もベテランから若手と均衡がとれ意欲的にホームの改善や地域との交流に取り組んでいる。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価結果を法人役員と全職員で話し合い、改善に向けて努力してきた。職員の要望で会議室や職員の更衣室を増築し、共用空間の拡張や職員の福利厚生にも取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は介護サービスの質の向上の基本であるとの認識から、職員全員で取り組み、改善すべき事項について確認し、具体的な改善策を検討し、実現に向け積極的に取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5)
	運営推進会議は定期的な開催とはなっていないが、今年度からは計画的に開催することにし、4月12日に今年度第1回を開催した。運営推進会議を積極的に活用し、地域に開かれたサービスを目指して地域との交流にさらに努めることを望む。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	ホームだより「さくらんぼ倶楽部」を発行し、ホームの行事や日頃の暮らしごとともに、身体の状況等を家族に知らせており、行事開催後には家族との意見交換会を行っている。また、家族の意見や意向は些細なことも収集できるような体制となっており、具体的な改善につながるよう努めている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	地域の行事や地域活動には積極的に参加し、交流をしている。また、ボランティアの受け入れも積極的に行っている。語り部の訪問が毎月あり、民話の会が継続するよう働きかけをし、地域に根ざした活動に努めている。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	認知症について職員全員が理解し、地域密着型サービスの重要性も認識しており、地域社会とのつながりを重視することを理念としている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	施設内に掲示すると共にミーティングや職場内研修時に話し合いをしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事には積極的に参加している。また、地区の高校生や語り部等がボランティアとして活動にきてくれている。		
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価結果を全職員で検討し、ほぼ改善されている。今後も自己・外部評価を活かした取り組みが実現できるような姿勢が認められる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の必要性は理解されているが、昨年度は定期的な開催には至っていなかった。今年度からは計画的に開催し、サービスの質の向上に努められることを望む。	○	年間計画に開催時期・協議問題等を決め、事前に推進委員に配布し、短時間でも濃密な懇談ができるよう配慮することが望まれる。
6	9				
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月の請求書送付の折に金銭管理の明細書や利用者の生活状況や受診結果等を知らせている。また、ホーム便りで行事の実施状況等も知らせている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時やあらゆる機会を利用し、家族等から意見の収集を行っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	極端な職員の異動はない。現在は職員全員が利用者と良好な関係を保っている。利用者に対して担当職員を決めているので、退職等やむを得ない異動の場合には利用者の動揺を最小限にする体制をとっている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験年数に応じて種々の外部研修に計画的に参加させ、その報告はミーティングの場で職員全員に周知している。また、その他の研修の情報も張り紙等で周知し、希望者に対して参加の支援体制をとっている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認知症グループホーム連絡協議会に加入しており、研修会や事例報告会に参加し、同業者同士の情報交換をしている。また、町の医療機関や福祉サービス事業所と連携を密にし情報交換をしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)	/		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	農作業や季節の食べ物の調理法など利用者の得意なことを教えてもらい、協働している。また、洗濯物を干したり、取り込んだり、たたんだりなど利用者と職員が自然体で日常生活をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者との会話の中で言葉・表情・態度でしたいこと等をくみ取り、可能な限り支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族の意向の共有化に努め、介護計画に反映させ日々の介護にあたっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月ごとに介護計画の見直しを行い、現状に即した計画となっており、その結果は家族に知らせている。今後計画の見直しの際には家族との話し合いも考慮されることを望む。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている(小規模多機能居宅介護)	/		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居以前からのかかりつけ医を継続して利用し、緊急時には家族と相談して協力医療機関を受診している。受診結果は家族に報告し、情報の共有を図っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在健康に問題のある利用者がいないこともあり、終末期について職員間で方針を共有しているとは言えず、終末期医療についての同意書も備えていない。	○	重度化した際の対応については、利用者や家族にとっては重要な事柄であるので、早期から関係者と話し合い、重度化に伴う意志の確認書(同意書)を作成し、関係者全員で共有しておくことが望ましい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員はあたたかく見守りながら、利用者のプライバシーには十分配慮し、プライドを損ねないような声かけやケアを実施している。個人情報の取り扱いは十分注意し、書類等は保管庫で管理している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	決められた日課はあるが、利用者の体調・気持ちを尊重し、柔軟な対応に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員全員が利用者と一緒に食事を楽しんでおり、さりげなく介助している。利用者の好みや嗜好を把握しており、きざみや味付けに工夫している。自分たちで収穫した野菜を使い季節感のあるメニューを心掛けている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	決められた日課はあるが、利用者の体調・気持ちを尊重し、安心して入浴できるように努めている。夜間に入浴を希望する利用者にも対応している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	利用者の得意なことや趣味等を把握して支援している。手まり作成や編み物が趣味の方の作品は各所に飾ってあり、大正琴やエレクトーンが趣味の方には誕生会などに演奏してもらっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している(認知症対応型共同生活介護)	天気の良い日には利用者の状況に応じてグループ単位で買物、散歩をしている。ホームの敷地内での散歩は日課となっており、自由に散策している。また、月に1度は花見や紅葉がり等を計画し実施し、年に1度は小旅行も実施している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵はかけていない。外出したい利用者にはさりげなくついていき、対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導により、火災訓練や救命訓練等を実施している。今後さらに避難訓練を定期的に実施していくことが望ましい。また、災害時の備蓄がされていない。	○	災害に備えた食糧や飲料水の備蓄が必要だと思われる。また、地域住民との連携を図り、緊急時に協力を得られるような体制作りを望む。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの栄養摂取量は記録されており、水分摂取はおおまかであるが把握されている。食事時には一人ひとりに水分摂取の声かけをし、支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間はテーブルやソファが機能的に配置され和室もあり、利用者が居心地よく過ごせるよう配慮されている。共用の空間には気になるにおいや音、空気のおどみは感じられない。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各自が好みの物（テレビ・椅子・写真・椅子等）を持ち込み、個性的な居室になっている。趣味をするための道具や台、エレクトーン・大正琴等を自室で自由に楽しんでいる。		

※  は、重点項目。

3 評価結果に対する事業所の意見

事業所名 グループホームさくらんぼ

記入担当者名 村上 剛

評価結果に対する事業所の意見

特になし

評価結果に対する「事業所の意見」の記入について

意見については、項目No.を記入してから内容を記入してください。